

令和8年度 学校経営方針

目黒区立目黒南中学校

校長 金子弘樹

I 本校の教育目標

- 【自立】 自分で考え、判断行動し、自らの言動に責任がもてる生徒
- 【協創】 個性や考えの違いを認め合い、協働して、新たな価値を創造する生徒
- 【信頼】 責任をもって最後まで取り組み信頼される生徒
相手の気持ちを考え行動し、仲間に信頼される生徒

II 目指す学校像

- 1 生徒が多様なひとびとと出会い、協働して新たな価値を創造する学校
(生徒を中心とした視点)
- 2 生徒一人ひとりの豊かな可能性を引き出し、しなやかに生きる力をはぐくむ学校 (教職員を中心とした視点)
- 3 地域とともに育ち、地域に支えられ、地域を支える学校
(地域を中心とした視点)

III 目指す教師像

- 1 教育に対する熱意と使命感、子供に対する愛情をもつ教師
- 2 豊かな人間性と温かい心、思いやりのある教師
- 3 組織人として責任感と協調性を持ち、学び合い、学び続ける教師

IV 目指す生徒像

令和6年度の第七中学校と第九中学校の生徒が策定

- 1 ひとりひとりが人任せにせず、自ら考え自主的に行動する生徒
- 2 複数人で力を合わせ、新たな価値を創造する生徒
- 3 お互いに遠慮なく助けを求められる関係性を築く生徒

V 学校経営の基本方針

変化の激しい社会、多様な社会に対応するために、心の耐力と協働する力を土台として自立する力と柔軟に対応する力をはぐくむ。

教育課題を探し出し、明確な課題と目標を定め、「挑戦」から「革新」へ変化を恐れず教育活動に取り組む。

家庭を含めた地域との連携や協力に基づいた教育活動を推進する。

※革新

新たに革（あらた）めることを意味し、既存のものをより適切と思われるものに変更することを意味する。「新しい学習方法」「新しい学習形態」「新しい考え方や捉え方」などを創造することによって、自律的・主体的に学ぶ力をはぐくむ。

カリキュラムマネジメントの考えを基に、教育内容の質の向上を目指して教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。

（調査（R）を大切に）

- ・計画（P）段階でひと工夫又は改善を入れる。

（例年通りでは後退、ひと手間かける）

起案者が分掌主任に相談する。または学年会・分掌部会で検討する。

- ・実行（D）は、生徒の自立、社会貢献を目指すことを目的とする。
- ・評価（C）を、現状の成果と課題を把握する機会とし、実施後すぐにアンケート等の実施及び検討をする。
- ・改善（A）は年度途中でも実践できることはする。

（共有（S）する）

- 1 生徒が多様なひとびとと出会い、協働して新たな価値を創造する
 - ①ダイバーシティを実現し、関わりを大切にした学習活動の充実
 - ②豊かな心を育成する人権教育、道徳教育の推進
 - ③実社会で生きる力をはぐくむ自発的、自治的活動の推進
- 2 生徒一人ひとりの豊かな可能性を引き出し、しなやかに生きる力をはぐくむ
 - ①ウェルビーイングを実現する、生徒も教員も活力あふれる教育活動の充実
 - ②学ぶ意欲を高め、学びを深める先端技術の活用
 - ③国際社会で活躍する人材を育てる国際理解教育の推進、コミュニケーション能力の育成
- 3 地域とともに育ち、地域に支えられ、地域を支える
 - ①地域運営を支える教育活動の推進
 - ②地域や社会の教育力を活用した小中連携、企業連携の推進
 - ③夢や希望をはぐくむキャリア教育や体験学習の充実
- 4 文部科学省研究開発学校としての取組を推進する
 - ①授業時数の1単位時間45分間として生み出した時間の活用
 - ②生徒の自己選択学習と自己調整学習の推進

VI 具体的な取組

「挑戦～革新」

1 学習指導

- ①授業規律を大切にし、安心・安全で秩序ある学習環境を整える。

- ②本時の目標を明示し、学習に対する見通しや振り返りを通して、生徒が学習を自ら調整する力を身に付けさせる。
- ③「生徒にとってわかる・できる授業」を実践し、自己選択や自己調整しながら粘り強く取り組ませて、知識・技能の基礎・基本の定着を図る。
- ④対話や考えを深め合う学習等、多様な他者と協働することによって、習得した知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ⑤学習用情報端末等の多様なICT機器を効率的・効果的に活用し、指導の個別化など指導方法や授業形態の工夫・改善に努める。
- ⑥総合的な学習の時間等を活用して生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、協働したりする教科横断的な探究学習を実施する。
- ⑦計画的な発表活動やスピーチ、話し合い活動等を通して言語活動の充実を図るとともに、プレゼンテーション能力を育成する。
- ⑧数学科、英語科では、指導方法工夫改善加配教員や教育支援員等を活用し、習熟度別指導や少人数指導を行う。
- ⑨学年教員によるローテーション道徳等の指導体制を工夫し、道徳科の充実を図る。
- ⑩各教科において適切に3観点の評価ができるよう指導計画を立て、次につながるよう指導と評価の一体化を意識した学習指導の充実を図る。
- ⑪保健体育は男女共習で行う。その際、お互いに尊重し協力する態度の育成を目指すとともに、運動量や活動内容を調整するなど安全に配慮して行う。
- ⑫東京都統一体力テストの結果を踏まえ、日常における健康や体力の保持増進、姿勢を意識させて、諸活動を通して体力の向上を図る。

2 生活指導・進路指導

- ①全教育活動を通じた道徳教育の充実を図り、道徳的な判断、心情、実践的な態度と意欲を育てる。
- ②人権教育を推進し、いじめは絶対に許されない行為であるという心を育てる。
- ③関わりと気付きを大切にして、意図的・計画的に発達指示的生徒指導、課題予防的生徒指導を行い、生徒理解や実態把握に努める。
- ④生活指導の情報（報告・連絡・相談）（第一報・完了報告）は全教職員が実践する。
- ⑤問題行動の未然防止に努めるとともに、問題行動に対しては、早期発見・早期対応など迅速・丁寧、組織的にチームで指導する。
- ⑥総合質問紙調査「i-check」や学校生活アンケートを用いて、生徒の友人関係・学級での関係性を客観的に捉える。
- ⑦教室や廊下等の環境美化や掲示物の工夫などにより学習環境を整える。
- ⑧学級活動や生徒会活動、学校行事等の自治活動を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、規範意識の向上を図る。

- ⑨個人情報保護やSNSの適正な利用等、インターネットの利用に関する情報モラルについて、指導の充実を図る。
- ⑩様々な状況を想定した実践的な避難訓練や安全指導を工夫して実施することで防災意識や危機管理意識を高め、危険を予測し、回避する能力を身に付ける、
- ⑪職業調べや職場体験、上級学校調べや上級学校の出前授業を通して、将来の生き方を考え、望ましい勤労観、職業観の育成を図り、適切な進路選択ができる能力を培う。
- ⑫特別支援教室等の授業実践や情報共有を通して、特別支援教育に対する理解を深める。
- ⑬不登校生徒に対しては、学級担任や学年教員、不登校担当教員が当該生徒との連絡を密にし、週1回の生活指導部会で情報を共有する。また、校内別室指導教室「南中ルーム」を開設し、学習支援や教育相談等の登校支援や校内の居場所作りを行う。
- ⑭スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターと連携し、教育相談体制を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりに努める。
- ⑮社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を育てるために、地域社会の人材等の講話や指導、体験学習など社会人から学ぶ機会を設ける。
- ⑯キャリアパスポートを活用して自己理解を深めるとともに、将来の生き方を考えさせる活動を行う。
- ⑰特別な配慮を要する生徒の指導については、保護者と連携を図りつつ、特別支援教育コーディネーターや特別支援教室巡回教員を中心に、特別支援教育校内委員会を開催し、全教職員で情報を共有して個に応じた指導をする。
- ⑱食育の推進を図り、健康の保持・増進に努める。

3 学校運営

- ①心理的安全性を高めるとともに、学年や分掌のチーム力の向上に努める。
- ②働き方改革の意識を高め、在校勤務時間の減少を目指す。
- ③分掌主任会議、企画会議、学年主任・学級主任会議を活用して縦と横の連携を強めるとともに会議の効率化に努める。
- ④教職員一人ひとりが勤務時間に対する意識を高めるとともに、効率的な会議運営やペーパーレス化を組織的に推進する。
- ⑤教科、道徳科、特別支援教育等の校内研修を通して、授業力の向上に努める。
- ⑥道徳科の実践を通して、全教職員の道徳科の授業力向上を目指す。
- ⑦安全指導・防災教育を通して、危険予測・危険回避能力を育成する。
- ⑧学年だよりや学校だより、学校ホームページを活用して情報発信に努める。
- ⑨全教職員がサービス事故防止の意識を高める。

4 特別活動・その他

- ①体育大会や文化発表会等の学校行事において生徒が主体的に企画に関わり、自治的・自立的な心情や態度を育成する。
- ②自主的・自治的な生徒会活動を通して、生徒間の望ましい人間関係を構築し、社会の一員として互いの人格を尊重し協力する心情や態度を育成する。
- ③校外学習や宿泊を伴う校外学習において実行委員会を組織し、生徒が主体的に企画に関わり、企画力や調整力を培うとともに、自主的・自立的な心情や態度を育成する。
- ④多様な他者と協働する様々な集団活動の意義を理解させ、望ましい学級や学年の集団活動を通して、協調性や規範意識を高める。
- ⑤一人一役など、委員会活動や学校行事等の生徒が主体的に活動する場を多く設ける。
- ⑥住区住民会議や町会、小学校主催の地域行事にボランティアとして参加させ、地域連携を推進する。
- ⑦全教職員が顧問となり、部活動の充実を目指す。

5 能力開発

- ①見通し、実行、振り返りの自己調整学習を推進する。
- ②自己選択学習等の探究を取り入れた学習を実践する。
- ③45分授業の効果的な学びの実践を目指して研究と研修を重ねる。
- ④生徒理解・状況把握に基づく発達指示的生徒指導、課題予防的生徒指導の実践に努め、生活指導力の向上を目指す。
- ⑤学習用情報端末等のICT機器を効率的・効果的に活用した授業力の向上を目指す。
- ⑥適切に3観点の評価ができるように指導計画を立て、適正な評価、信頼される評価の実践に努める。